

胸をしめつけられる漢字

京都大学大学院
人間・環境学研究科 教授

阿辻哲次



この段階では地名を漢字で書くことはなかつたが、ずつと時代がさがつて、江戸時代の仙台藩主伊達綱村が菩提寺を参拝したり、山門内からはるか遠くの海岸を眺め、「あれはなんというところか」と家来にたずねた。従者が「ゆりあげ浜にござります」と答えたところに、「どのような漢字を書くのか」とのご下問。

「漢字はございません」との答えを聞いた藩主は、「この門の内側から水が見えるから、今後は門の中に水を書いて『閑上』とせよ」とおつしやった、というのである。まことにお氣楽な話である。山上にある寺院の門から海岸が見えるところなどいたるところにある

平安時代のこと、この海岸に觀音像が漂着し、波に「ゆりあげ」られていたのを漁師がみつけ、それ以来この浜を「ゆりあげ浜」とよぶようになつた。

仙台市の南に位置する名取市東部で太平洋に面したところに「ゆりあげ」という地域があつて、漢字では「閑上」と書く。「閑」は珍しい漢字だが、この漢字が作られたのには、次のようなきさつがある。

春に東北地方を未曾有の大災害が襲つた。被害を受けられた方々にはまったく申しあげることばもない。一日も早い復興をお祈り申しあげます、という月並みな言葉しか書けない自分の無力さが、まったく情けない限りである。

被災地のその後の状況を報じるニュースの中に、私は胸をしめつけられる漢字がしばしば登場する。

「ありがとう幸せ」で、「閑」はこうしてこの海岸を意味する地名として使われることとなり、いまでは「JIS 漢字」の第二水準に入つていて、「閑」のみならず、携帯電話で簡単に表示できる。

殿様の興趣から作られた漢字が、國家規格にまで取りこまれた事実に興味をもつた私は、五年ほど前、この漢字を見るためだけに閑上に出かけた経験がある。JR名取駅からタクシーに乗つた。閑上は魚がおいしきれど、特に赤貝の産地で、東京の寿司屋で出される上質の赤貝はほとんどこのものだ、という話を聞きながら十五分ほど走ると、そこが閑上漁港だった。

静かでひなびた漁村だった。

港近くの寿司屋で特産の赤貝を堪能し、駅に戻る途中に閑上中学校があつたので立ち寄つてもらい、「閑」の字が書かれた校門や門札などを写真に撮つていると、運転手さんが不思議そうな顔で、「この漢字そんなに珍しいかねえ。私も子供の頃から見慣れているけどね」といった。

駅までの車内でも、最近近くに大型スーパーができるので、たくさん的人がここに来るようになつて賑やかだとか、赤貝は通販でも買えますよとか、話好きの運転手さんがいろいろ楽しませてくれた。

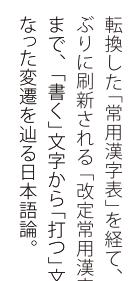
その閑上が、壊滅的な打撃を受けたというニュースを見たとき、私は涙が止まらなかつた。漁協は膨大なガレキの山と化し、写真を撮らせていただいた閑上中学校も大きな被害を受けつつ、避難所として使われたと聞く。

珍しい漢字にひかれて訪れただけのご縁だが、いいところだった。復興したらこんどこそ、通販で赤貝をたくさん取り寄せるつもりでいる。

書籍紹介

戦後日本漢字史

新潮社 阿辻哲次著



当て字・当て読み

漢字表現辞典

三省堂 笠原宏宏編

運命(さだめ)・時代(とき)・秋桜(コスモス)・本気(マジ)など、現代社会で流通している「当て字」「当て読み」の表現を多数収録。出典は漫画、歌謡曲の歌詞や広告など、私たちが普段目にすることが多い。身近な漢字表現から、漢字の面白さ、豊かさを改めて知ることができる一冊。



912ページ
ISBN 978-41385137209

定価¥3,500(税別)

*上記の書籍の購入は、お近くの書店もしくはインターネットでおこなってください。